

薬害教育教材に関するアンケート調査（令和 7 年度）の結果 について

厚生労働省 医薬局総務課

医薬品副作用被害対策室

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

薬害教育教材に関するアンケート調査（令和7年度）の概要

調査目的

高校1年生を対象とした薬害教育教材「薬害を学ぼう」について、教材のより有効な活用方法等の検討につなげるため、教育現場での使用状況、問題点等を把握する。

調査対象

全国の高等学校等（5,853箇所）

※高等学校（全日制・定時制・通信制）、中等教育学校後期課程・特別支援学校

※令和元年度調査までは中学校への調査であり、令和5年度から高等学校に変更

調査期間

令和7年10月～12月末

※文部科学省のメールマガジンや厚労省HPを活用した。

主な調査内容

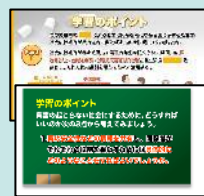
- ① 各教材の使用状況
- ② 各教材を使用するに至ったきっかけ
- ③ デジタル版教材の使用可能性

調査方法

令和6年度と同様に、URLやQRコードを周知することで、webフォームから回答する方式とした。



「パンフレット」
…薬害を学ぼう冊子
「デジタル版教材」
…「パンフレット」
のデジタル版



「視聴覚教材」
…薬害を学ぼうの動画教材（各校にDVD配布。厚労省のYouTubeでも公開）



「指導の手引き」
…指導のポイント等を記載した教員向け参考資料



「実践事例集」
…モデル授業の実践例をまとめた教員向け参考資料

アンケートの回答状況と回答属性

回収率

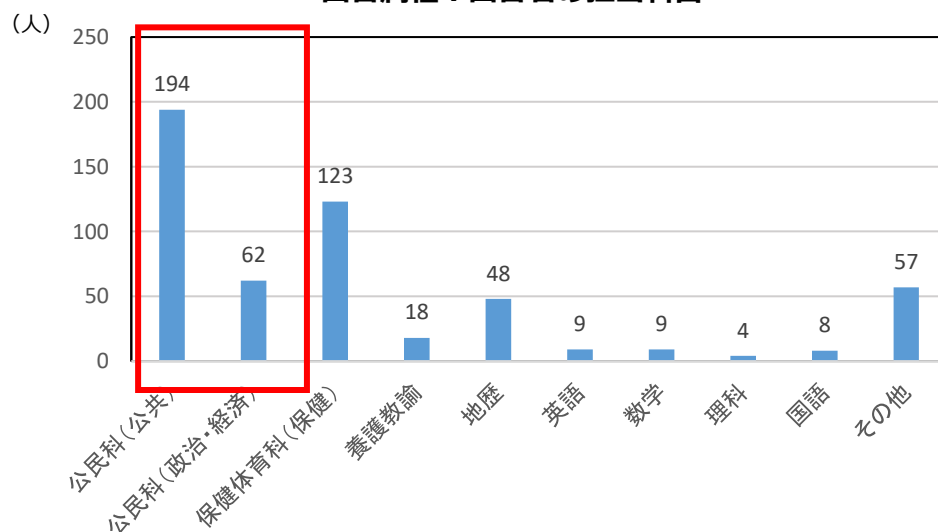
8.8% (5,863箇所中515箇所(522人)) (対高校)

※その他、中学校教員からも10箇所(10人)から回答あり

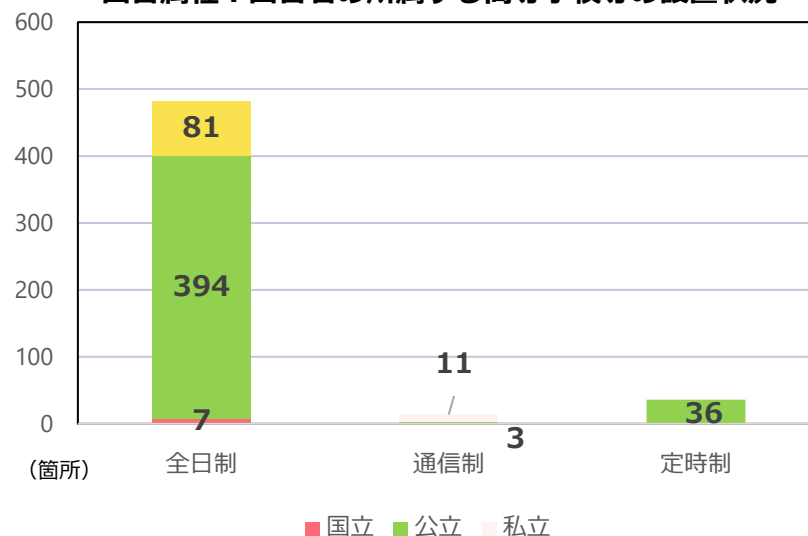
※参考：過去のアンケート回収率

平成29年度：11.5%	(11,058箇所中	1,268箇所)	対中学
平成30年度：10.0%	(11,273箇所中	1,138箇所)	対中学
令和元年度：4.5%	(11,226箇所中	507箇所)	対中学
令和5年度：3.4%	(5,867箇所中	200箇所)	対高校
令和6年度：6.5%	(5,867箇所中	381箇所)	対高校

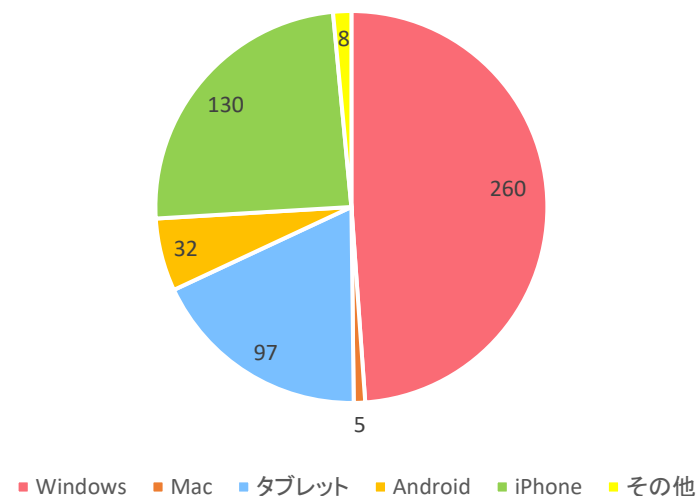
回答属性：回答者の担当科目



回答属性：回答者の所属する高等学校等の設置状況



回答属性：回答者が回答した際に利用したツール



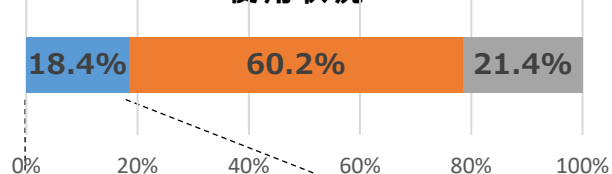
※アンケート結果には中学校を含む(次頁以降も同じ)。

アンケート結果（各教材の使用状況／デジタル版教材の使用可能性）①

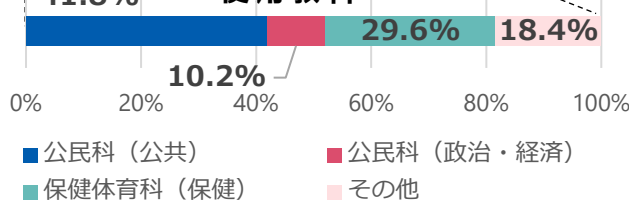
- パンフレットの利用率が相対的に高く、一定の紙ニーズが予想される一方で、オンライン教材の利用率は低調。
- デジタル版教材を1人1台端末で使用するとした場合、パンフレットを使用・配布しないとの回答が3割程度。

パンフレット

使用状況

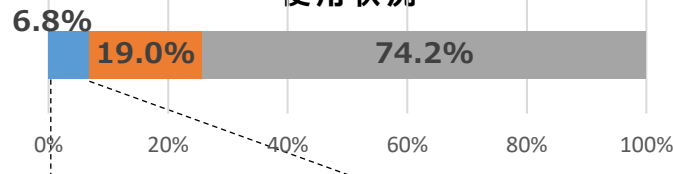


使用教科

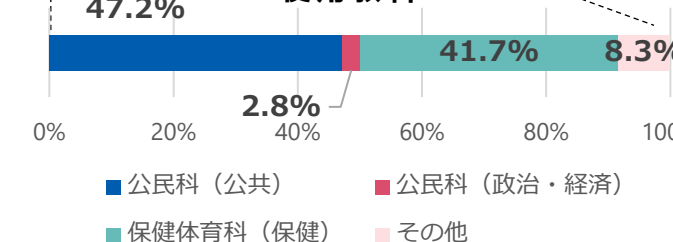


デジタル版教材

使用状況

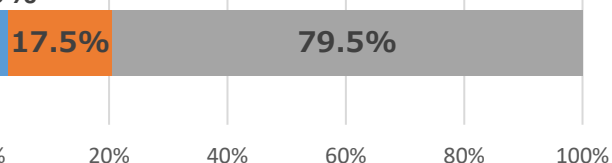


使用教科

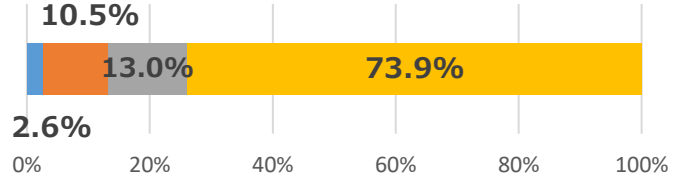


DVD

3.0%



Youtube



デジタル版教材の使用可能性

端末ではデジタル版教材を表示してもらい、印刷製本された「薬害を学ぼう」は使用しない

29.9%

端末ではデジタル版教材を表示してもらい、印刷製本された「薬害を学ぼう」を参考配布する

32.3%

端末ではスライド作成や調べ物に用い、教材として印刷製本された「薬害を学ぼう」を使用する

35.2%

その他

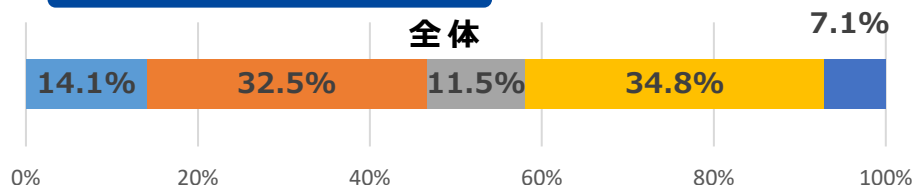
2.6%

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0%

アンケート結果（各教材を使用するに至ったきっかけ）

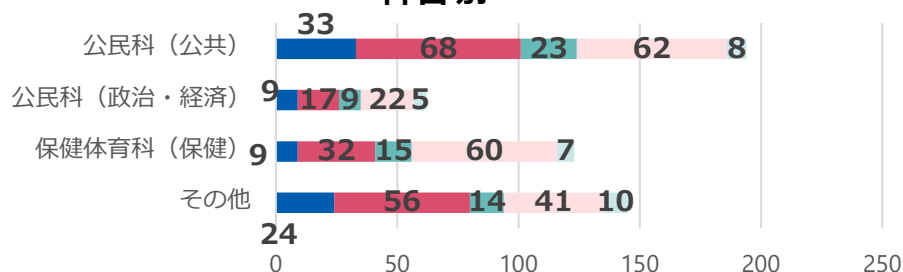
- 教材を活用するに当たっては、他の職員と相談した割合が高い。
- 送り状に「公民科担当教諭」と記載したものの、公民科担当教諭に直接届いたのは2割（24%）程度。
- 教材使用に当たっては、同封した教材を参考にしたとの回答が多く、同封教材が活用されている傾向が見られる。

配布・活用の検討方法



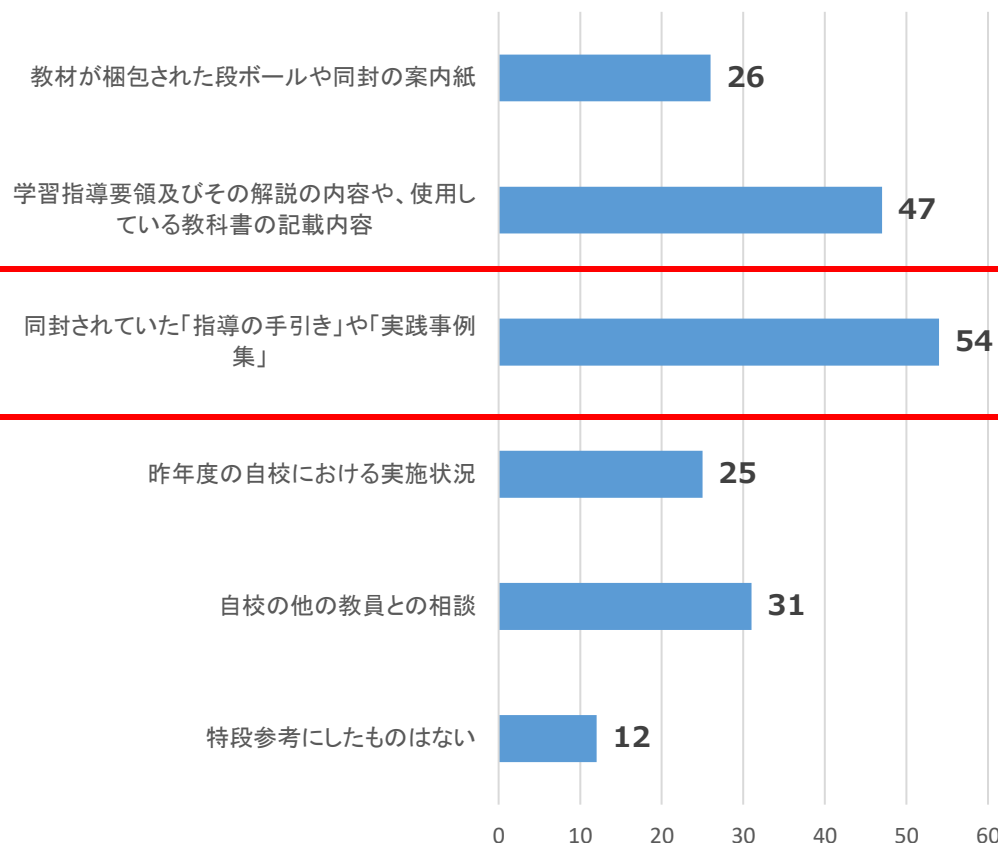
- 自分宛てに直接届き、自分のみで活用するかを検討した
- 自分宛てに直接届き、他の職員と相談して活用するかを検討した
- 他の教員宛てに届き、自分に手渡され、自分のみで活用するかを検討した
- 他の教員宛てに届き、他の教員と相談して活用するかを検討した
- その他

科目別



- 自分宛てに直接届き、自分のみで活用するかを検討した
- 自分宛てに直接届き、他の職員と相談して活用するかを検討した
- 他の教員宛てに届き、自分に手渡され、自分のみで活用するかを検討した
- 他の教員宛てに届き、他の教員と相談して活用するかを検討した
- その他

教材使用に当たって参考にしたもの



（注）パンフレット又はデジタル版教材を使用した106名が回答対象であるが、複数回答が可能であるため、人数は一致しない。

その他自由記述①

<好意的な意見>

- ・ 視聴覚教材にある、当事者からの言葉は心に訴えるものがある。
- ・ 「薬害を学ぼう」は要点がまとまっていて良いテキストであった。
- ・ よくできている教材。
- ・ 具体的で分かりやすい。
- ・ とても見やすくまとまっている。
- ・ 授業で紹介しやすい適切な内容である。
- ・ 生徒の思考力を向上させることができる教材の一つであると思う。
- ・ 薬害については講演もしているが、生徒の身近に危険が迫っていることを認識させたい思いがあるので、非常に参考になっている。
- ・ 動画については、一つ一つが短い時間で区切られているので、授業内で使用しやすいと感じた。
- ・ とても参考になる教材で、コンパクトで使いやすい。
- ・ 実際の薬害被害者の体験談は生徒たちが真剣に耳を傾けていた。リアリティがあるほど生徒の心に響く。
- ・ 生徒の理解を深めるうえで有用な教材だった。
- ・ 指導の手引きを有効に活用した。
- ・ とても解り易かった。
- ・ 必要な学習だと思う。
- ・ 生徒の感情に強く訴える教材になっている。
- ・ 丁寧に作成されている。
- ・ 今後も継続して活用したい。

<教材の使用状況について>

- ・ 授業の消費者問題のところで参考資料として利用させてもらっている。
- ・ 教材研究の参考にした。
- ・ 新カリキュラムになり、教科書指導に四苦八苦している。年間授業時間の中で出来るだけ多くの知識を生徒につけさせてあげたい。
- ・ 印刷製本された教材については、使用している教科書の内容に沿って、一部の箇所を補足説明的に使用し、配付した。
- ・ 「薬害」については、法学部在籍時代、追跡的に主に新聞（複数）の切り抜きをスクラップブックに整理し、現在も毎日授業開始冒頭部分の数分間で紹介、コメントしており、今回のアンケートは、とてもタイムリーなもので、厚生労働省から、このようなアンケートが来たよ、と生徒たちにも紹介し、モチベーション高揚に役立てた。
- ・ 公民科の授業や、本校のLHRで実施している薬物乱用防止講話等とリンクさせた当教材の有効な使用方法を今後検討していきたい。
- ・ 今年担当者の事情でうまく資料を活用できなかったが、大切な内容だと思うので、今後教科担当とも活用の仕方について検討していきたい。
- ・ 本校では、学年・保健体育の担当者と相談し、冊子の配布⇒各自で読む になった。

その他自由記述②

<学校現場の現状から、教材の使用等に課題を感じている意見>

- 動画を中心にした教材が望まれる。
 - 通信制のため使用は難しい。
 - 共通テスト受験を意識して年間指導計画をたてていると、1つの単元に大きく時間を割くのは難しい。
 - 製本の教材については、内容を誤って理解しないように丁寧な解説が必要であることに注意すべきであると考える。
 - 実際に経験したことのない領域のため、指導の手引きがあると助かる。
 - 担当する教科が多くて、さまざまな教材を利用する余裕がない。
 - 通信制課程のため、実施スクーリング数が全日制のように多くは設定できないため、あまり一コマに時間を費やせないのが残念である。
- 限られた時間の中での学習なので、教材の活用は限られてしまう。
 - 欲を言えば、C型肝炎だけでなく、B型肝炎についての記述も含めて欲しい。
 - 十分に活用する時間を確保できなかった。

<教材のデザインや内容、配布方法や配布時期についての意見>

- 頂いた時期で科目での配布のタイミングがなかった。
- 生徒1人1台デジタル教材がある学校では、印刷物は不要でもいい。
- 要点がよくわからない。そのページごとに一番伝えたいことを明示してもらえると、限られた時間でも使用しやすい。
- 印刷製本された教材については、使用している教科書の内容に沿って、一部の箇所を補足説明的に使用し、配付した。せっかくの教材ではあるが、隅々まで触れることはできない。そのため、冊子のものは必要なく、使用したい部分のみをデータで活用できたら良いのかと思う。
- 「薬害」ということで、本校では養護教諭に渡される。直接、公民科教員に渡るようになればいいなと思う。
- 内容は適切適当だと思うが、授業で使用する教材は教科書なので、同様の内容を教科書に掲載した方が扱いやすい。別資料（今回送付いただいた印刷製本など）だと生徒が配布後に散逸してしまう等、授業での一貫した内容として扱うには心配が残る。
- 授業の計画は前年度末に立てるため、その時期に資料を送っていただけると年間計画に入れやすい。

その他自由記述③

<特別支援学校についての意見>

- ・ 特別支援学校においては漢字が読めない、内容理解が難しい児童生徒が在籍しているため、内容を分かりやすくしていただけると活用の幅が広がる。
- ・ 特別支援学校の知的障害である高等部生徒について、現在のところ、授業等で使用していることはない。
- ・ 支援学校でも使用できるようにふりがなを入れるなど表記の工夫を希望。
- ・ 本校は知的障がいの生徒が学ぶ特別支援学校であり、クラスによって生徒の実態差もあり、内容を理解することは難しい生徒も多数いる。いただいた資料については、生徒の実態に関係なく全員に配付し、学校や家庭にて実態に応じて読み物として「薬害」について知ったり、学んだりすることができるようにしている。
- ・ 本校は特別支援学校で、準じた教育課程が毎年在籍していないことがあるが、「薬物乱用防止教室」の出前講座を活用して、教科外の時間で毎年学習している。そういった出前講座と関連付けながら活用して学習している。
- ・ 知的障がいのある生徒へは内容が難しかった。
- ・ 特別支援学校で高等学校に準ずる教育課程で公民を選択する生徒がいる場合に使用する。今年度は、該当する生徒が在籍していないため使用していない。今後は、生徒の実態や課題において公民を選択した場合は使用を検討する。
- ・ 特別支援学校の生徒には難しい内容のため、知的障害がある中学部、高等部の生徒も学べるものであれば活用は検討したい。